



第60回

日本消化器がん検診学会総会

The 60th Annual Meeting of the Japanese Society of Gastrointestinal Cancer Screening



ホームページQRコード

市民公開講座のご案内

2021年

6月6日(日) WEB開催

9:50~12:20 (150分)

総合司会：第60回日本消化器がん検診学会総会 会長 小川 眞広

【前半】 9:50~11:05 (75分)

1. はじめに 市民公開講座 開会の辞 (5分) 会長：小川 眞広
2. 本学会創立60周年 本学会が担ってきた検診による社会貢献 (10分)
演者：日本消化器がん検診学会理事長 渋谷 大助
3. 疫学からみた検診の意義 (20分) 演者：松田 一夫
4. 胃がんバリウム検診の今 (20分) 演者：齋藤 洋子
5. 胃がん内視鏡検診の今 (20分) 演者：鎌田 智有

【休憩】 11:05~11:15 (10分)

【後半】 11:15~12:20 (65分)

6. 胆嚢がん・膵癌を早期に見つけるためには？ (20分) 演者：岡庭 信司
7. 大腸がん検診の今 (20分) 演者：野崎 良一
8. 腹部超音波検診の今 (20分) 演者：松本 直樹
9. 閉会の辞 (5分)
総括発言：第50回総会会長/日本がん検診・診断学会理事長 森山 光彦

■ 参加費：無料

参加登録期間：

2021年4月26日(月)~5月31日(月)17時迄



参加登録はこちらから



第60回 日本消化器がん検診学会総会 市民公開講座

2021年6月6日(日) 9:50～12:20 (150分) Web開催

【前半】 9:50～11:05 (75分) 総合司会：小川 眞広 (第60回日本消化器がん検診学会総会 会長)



1. 開会の辞 (5分)

会長：小川 眞広 (日本大学医学部)



2. 本学会創立60周年 本学会が担ってきた検診による社会貢献 (10分)

演者：渋谷 大助 (一般社団法人日本消化器がん検診学会 理事長)

日本消化器がん検診学会は今年で創立60周年を迎えます。

創立時は高度経済成長期の真最中で、結核に代わって脳卒中やがんによる死亡が増加してきた時期であり、本学会は我が国のがん検診学の先駆けとして発足し、わが国の公衆衛生の発展に寄与してきました。



3. 疫学からみた検診の意義 (20分)

演者：松田 一夫 (福井県健康管理協会)

日本が世界一の長寿国となり、今や日本人男性の3人のうち2人、女性では2人のうち1人ががんになります。とりわけ多いのが消化器系のがんです。がんにならない方法、がん検診の正しい受け方についてお話します。



4. 胃がんバリウム検診の今 (20分)

演者：齋藤 洋子 (一般財団法人茨城県メディカルセンター)

胃がんバリウム検診は、1983年から施策として実施され、

国としては、検診を受けた方は胃癌で死なせないことを目的としています。ピロリ菌と関連している人は、先ず、胃がん検診を受けることが大事です。



5. 胃がん内視鏡検診の今 (20分)

演者：鎌田 智有 (川崎医科大学総合医療センター)

現在、従来からの胃X線検査に加えて、各自治体を主体とした胃内視鏡検診が全国的に普及し始めています。胃がんは早期発見により治療できる病気です。是非とも定期的な胃がん検診を受けましょう。

【休憩】 11:05～11:15 (10分) 【後半】 11:15～12:20 (65分)



6. 胆嚢がん・膵癌を早期に見つけるためには？ (20分)

演者：岡庭 信司 (飯田市立病院)

超音波は苦痛や被曝を伴わない検査であり、無症状の胆嚢がんや膵臓がんが指摘されることもあります。

最近では、膵管拡張や膵嚢胞といった高危険群を拾い上げることにより膵がんの早期発見も可能となっています。



7. 大腸がん検診の今 (20分)

演者：野崎 良一 (大腸肛門病センター高野病院)

日本人がかかるがんで最も多いのが大腸がんです。

男性の11人に1人、女性の14人に1人が一生のうちに大腸がんを診断される時代になっています。

大腸がんは早期に発見して治療すればほぼ治癒が可能です。

大腸がん検診はその有効性すなわち大腸がん死亡率の減少効果は証明されています。皆さん、進んで大腸がん検診を受けましょう！



8. 腹部超音波検診の今 (20分)

演者：松本 直樹 (日本大学医学部)

腹部超音波検診では、肝臓、胆道、膵臓、腎臓、脾臓、大動脈など多くの臓器が一度にチェックできます。

時代の変化と共に多い病気の種類も変わりつつあり、最近は特にどのような病気が見つかるのか紹介します。



9. 閉会の辞 (5分)

総括発言：森山光彦 (日本大学医学部)